

令和4年度「60（ロクマル）プラス」優良実践校 実践校報告書

1 実践校名	矢巾町立不動小学校
2 実践名	学校給食共同調理場・栄養教諭と連携した食に関する指導の充実
3 実施対象者	不動小学校全校児童
4 目 標	発達段階に応じた指導を通して「食の在り方」について考えさせ、食の大切さを理解しようとする態度を醸成する。
5 実践内容	<p>1 学校給食共同調理場の見学学習</p> <p>(1) 施設および調理作業の見学</p> <p>(2) 実際に使用している調理器具に触れる</p> <p>(3) 栄養教諭による説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食がどのようにしてできるか ・給食提供に携わる人が気をつけていること <p>2 授業実践（「食」に関する授業を全学年で実施）</p> <p>(1) 題材「おはし名人になろう」</p> <p>(2) 指導者 T1：学級担任 T2：栄養教諭</p> <p>(3) 内容について</p> <p>児童の実態から、自分の食べ方を振り返ったり、正しい箸の持ち方を身につけたりすることをねらい、本題材を設定した。</p> <p>マナーのわるい食べ方のロールプレイを児童に見せ、自分の食べ方を振り返らせたり、「おはし名人カード」を用いて、上の箸は動く箸、下の箸は動かさない箸ということを体感させたりした。また、児童全員に練習用はしセットを配付し、「スポンジくん」を箸でつまんだり話したりする活動を行った。児童は楽しく活動していた。</p> <p>その後は、個人のめあてを決めさせ、1週間ほどそのめあてに向かう取組を行った。取組についてもシートを用いて振り返らせた。</p>
6 成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食共同調理場見学を行ったことにより、給食がどこからどのように学校に届くのかを、興味を持って、学ぶことができた。そのことにより、普段食べている給食への興味関心を高めることができた。 ・学校給食共同調理場見学の直後に授業実践を計画したことで、児童の興味や理解の観点からも充実した学びの機会とすることができた。 ・正しい箸の持ち方を理解したり練習したりできたものの、その定着には時間を要する。今後とも日常的に今回の学習を想起させながら、必要に応じて、声かけや指導を行っていきたい。
7 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・給食便り「すこやか」（毎月発行・配付）の活用 ・家庭との連携
8 来年度以降の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で給食試食会ができず、また、どのような給食を食べているのかを発信する機会は月に1食程度『すこやか（給食だより）』に掲載する程度であったが、学校給食共同調理場では、令和5年1月より Instagram で給食写真や一口メモを掲載し、2月には YouTube で「給食（カレー）ができるまで」を公開する。今後も学校と学校給食共同調理場が連携を図り、情報発信や家庭との連携の充実に努めていきたい。

小学校第1学年 特別活動指導案(食に関する指導)

日時 令和4年10月18日(火)第4校時

学級 矢巾町立不動小学校 1年1組

(男子14名 女子15名 計29名)

指導者 中元 幸子(T1:担任)

飛塚 美智子(T2:栄養教諭)

1 題材名 なんでもたべてげんきいっぱい【学級活動の内容(2)キ】

2 題材について

(1) 題材設定の理由

小学校学習指導要領の学級活動の内容は、「(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること」と「(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること」で構成されている。活動内容(2)には「学校給食と望ましい食習慣の形成」の内容があり、これまで以上に学校給食の指導と望ましい食習慣の形成を図る指導を充実していくことが求められている。楽しく食事をする、健康によい食事のとり方、給食時の清潔、食事環境の整備など、望ましい食習慣の形成を図ると共に食事を通して好ましい人間関係を築くことは、子どもたちの成長にとってとても大切である。

1年生にとって給食時間は、待ち遠しく、そして楽しくリラックスできるひと時であるようにと願う。しかし、1年生にとってはまた、生涯にわたって心身ともに健康な生活を過ごすための食生活の入門期として大切な役割も担っている。成長が著しい小学生にとっては、バランスのとれた多くの栄養が必要な時期であるが、苦手な食品や食べたことがない料理は安易に残す傾向がみられ、偏食により身体面や精神面での健康がそこなわれつつあるといわれている。

そこで、食べ物が体の健康のために大きな役割を果たしていることを理解させたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童について

児童の実態を把握するため食べものアンケートを Google フォームにて行った。(29名中29名回答)

子どもたちの傾向として、しいたけ・たけのこ・ねぎ・ほうれん草など野菜が、苦手な子が多い。次に多かった答えは、えびやさかななどの魚介類であった。

本題材は、このような実態の児童を踏まえ、自分の食べ方を振り返ったり好き嫌いなく食べることの大切さを知らせたりするのに最適な題材であると考えた。

3 目標

健康な体を作るためには、好き嫌いしないで食べることが大切であることを理解する。

4 食育の視点

- ①食事の重要性(食べ物に興味・関心をもつ。)
- ②心身の健康(嫌いな食べ物でも親しみをもつことができる。)
- ③食品を選択する能力(食べ物の名前がわかる。)

5 指導計画

事前調査 好き嫌いアンケート(Google Forms にて)

本 時 なんでも食べてげんきいっぱい

事後指導 がんばりカードの実践

6 他教科との関連

○特別活動における学級活動内容(2)「日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。」と関連させ、学級活動及び給食時間における指導として、健康によい食事のとり方を扱い、自己の食生活を振り返る場面を通して望ましい食習慣の形成を図る。

○道徳 4-(2) 家族や家庭を愛する心と関連させ、家族の一員として役立つ喜びを実感させたり、自分の成長を振り返るに当たっては、道徳 2-(4) 尊敬と感謝と関連させたりして指導の充実を図る。

7 本時の指導

(1) 本時のねらい

なんでも食べることで、元気になることがわかる。

(2) 本時の展開

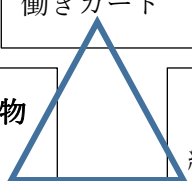
	学習活動	指導上の留意点	資料	T1	T2
導入 10分	1 すきな食べ物、苦手な食べ物について話し合う。(アンケート結果より) 2 本時の課題を把握する。	すきな食べ物、苦手な食べ物について学級全体の様子を把握する。	食品絵カード	一斉指導	掲示補助
<p>なんでも食べてげんきいっぱい!</p>					
展開 25分	3 苦手な食べ物が食べられるようになった経験や工夫しながらがんばって食べていることを発表しよう。 4 食べ物の3つの働きを知る。	・少しでも食べてみようとする児童の気持ちや発想を大切にする。 ・食べ物は、大きく分けると3つの働きがあることを知らせ、食べ物にはそれぞれ体にとってよい働きがあることに気づかせる。	黄、赤、緑の働きカード 栄養マジック用紐	一斉指導 机間巡視	机間巡視 一斉指導

終 末 10 分	6 学習を振り返り、感想を話す。	・家庭でも給食でも、なんでも食べるように意欲を持たせる。 ・わかったこと、気づいたこと等	がんばりカード	一 斉 指 導	机 間 巡 視
-------------------	------------------	---	---------	------------------	------------------

(3) 評価

なんでも食べることで、元気になることがわかったか。

8 板書計画

課題:なんでもたべて、げんきいっぱい！			
すきな食べもの ・ ・ ・	苦手な食べもの ・ ・ ・	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 赤の食べ物 絵カード 働きカード </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 黄色の食べ物 絵カード 働きカード </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 緑色の食べ物 絵カード 働きカード </div> </div> 	
にかてものが たべられるようになったもの		【まとめ】 ・にかてもものでも3口食べる ・3つのはたらきの食べ物をバランスよく食べる。	

小学校第2学年 特別活動（学級活動） 指導案

日 時 令和4年9月12日（月）5時間目
児 童 矢巾町立不動小学校 2年1組
（男子15名 女子13名 計28名）
授業者 T1 担 任 高橋 裕子
T2 栄養教諭 飛塚 美智子

1 題材 おはし名人になろう【学習指導要領学級活動の内容（2）ーキ】

2 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は学習指導要領における特別活動2（2）「日常の生活や学習への適応及び健康安全」のキ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」を目指したものである。

姿勢を正して、お椀を手で持ち、箸で一口ずつ口に運ぶ食べ方は、家庭生活で当たり前のこととして教えられ、伝承されてきた日本の食文化である。しかし、現在の家庭では、正しい食事の食べ方についての教育されていないせいでしょうか、身に付いていないのが現状である。とくにも、はしは、米を主食とする日本人には欠かせない便利な道具である。「はさむ」「つかむ」「切る」「包む」などの多様な使い方があり、スプーンやフォークではできない使い方もある。食事のマナーを守るためにも、はしを正しく持ち使いこなすことが重要である。

しかし、正しくはしを持つことができなくても食事をすることに不自由を感じるものがなく、はしを正しく使う意義やよさを理解できていないため、正しいはしの持ち方に改めていこうとする意欲がもてないのではないかと思われる。

はしの持ち方は、大人になってからでは直しにくいいため、低学年のうちにはしの正しい持ち方を覚え身につけさせたいと考え本題材を設定した。

(2) 児童について

児童の実態を把握するため食べ方についてのアンケートを行った。

GoogleForms にて28名。

正しくはしを持っていると答えた子は、14.3%（28人中4人）であった。ごはん粒をきれいにつまむことが出来ると答えた子は、82.1%（23名）であった。はしを正しくもてなくても不自由さを感じず食事をするのが、できている実態が明らかとなった。また、食べ方でお家のひとから注意されることがある児童は、50%（14名）いた。内容は、左手、食器を持つ、はしの持ち方、ひじをつかない等であった。自分たちの食べ方で当てはまる項目と一致する。食器を持たない8名、ひじ5名、おちゃわんのもち方3名、はしのもち方3名という回答であった。

本題材の学習は、これらのような実態の児童が、自分の食べ方を振り返ったり、正しいはしのもち方を身に付けさせるのに適した題材であると考えられる。

(3) 指導について

おかしな食べ方のロールプレーから自分の食べ方を振りかえさせる。

正しいはしのもち方では、親指・人差し指・中指の3本しか使わない。不要な小指・薬指を固定

するために、「おはし名人カード」を使って上のはしは、動く箸、下のはしは、動かない箸を体感させながら、正しいお箸の持ち方の習得させたい。次に、「スポンジ君」（2cm角程度のスポンジにニコニコマークの顔を書いたもの）をお箸でつまんだり離したりする活動をさせる。「スポンジ君」の顔を変化し、お箸の先端部への力加減が自然と身につくように仕向けて、はしを正しくもとうとする意欲を持続させたい。

(4) 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活につい ての知識・理解
進んではしの持ち方を練習しようとしている。	正しいはしの持ち方で、食事 をすることができる。	はしの正しい持ち方がわか る。

3 本時の学習

(1) 本時のねらい【食育の視点】

- おかしな食べ方に気づき、自分の食べかたを振り返らせる。【食文化・社会性】
- 箸の正しい持ち方がわかり、実践していこうとする意欲をもつ。【食文化・社会性】

(2) 本時の展開

過程	学習活動・学習内容 (□指示)	指導上の留意点・評価 (□指導上の留意点 ※評価)		資 料
		T 1	T 2	
導 入 8 分	1 先生の食べている所を見て、気づいたことを発表する。 ・ ひじをついて食べる。 ・ 食器を持たずに食べる。 ・ 変なおわんの持ち方をする。 ・ 箸を握ったようにもって食べる。	○担任が実演して見せて、悪いところを発表させる。	○ 絵を貼って、食方がおかしい所を確認する。	絵カード 箸、おわん、机、いす 食べ方調べ結果 (おわんの写真) スライド
	2 自分たちの箸の持ち方結果を知る。	○はしの持ち方が違っている人が多いことに気づかせる。 ○ お茶碗にごはんつぶが付いていることに気づかせる。		
		※自分の食べ方をふりかえることができたか。		

<p>ま と め 10 分</p>	<p>決めよう</p> <p>7 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の学習を振り返り、おはし名人になるためにがんばることを決めましょう。</p> <p>やってみよう</p> <p>(2) 決めたことに5日間取り組みましょう。</p>	<p>○ 学習内容を振り返らせ、これからがんばることを自己決定させ、記入させる。</p> <p>○ 食べ方名人カードに取り組むことを知らせる。</p>	<p>○ 家庭配布プリントを配布する。家でも苦手なものにもチャレンジしたり、箸の持ち方を練習して「おはし名人」をめざすよう意欲づける。また事後指導について説明する。</p>	<p>プリント</p>
		<p>※正しくはしを持つという意欲が持てたか。</p>		

4 板書計画

おはし名人になろう

ひじをついで食べる絵

お茶碗をもたずに食べる絵

へんなおわんの持ち方

にぎりばしの絵

食べ方調べの結果
(スライドにて)

食器に残っているおかずの写真

知ろう

れんしゅうしよう

正しいはしの持ち方

上のはし (動く)

下のはし (動かない)

はしを動かしてみよう

おはし名人カード

上のはし

下のはし

まとめ

- おはし名人になるために正しくはしをもとう！

きめよう

やってみよう

第3学年 学級活動指導案

日 時：令和4年6月10日(金) 5校時

指導学級：矢巾町立不動小学校3年生

指導者：教 諭 齋藤 真希恵 (T1)

栄養教諭 飛塚 美智子 (T2)

1 題 材 「けんこうなよい1日の生活」

2 題材の目標

- ・健康に過ごすために、食事、運動、睡眠をしっかりとることが大切であることを理解し、実践しようとする意欲を育てる。
- ・朝ごはんの大切さを理解し、おいしく食べるための工夫をする意欲をもつ。

3 食育の視点

- ・健康に過ごすための食事の大切さについて知る。【食事の重要性】
- ・朝ごはんをおいしく食べるよう工夫できる。【心身の健康】

4 指導計画

- ・事前の活動 アンケート・生活リズムチェック (GoogleFormsにて)
- ・本時の活動 けんこうな生活について考えよう
- ・事後の活動 がんばりカード

5 学習の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	資料等	
導入 5分	1 たくみさんの一日の生活表を見て、元気の無い理由について考え、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんをちゃんと食べていない。 ・夜、寝るのが遅い。 ・朝、起きるのが遅い。 ・運動をしていない。 	○たくみさんの生活表を掲示する。 (朝は7時過ぎに起きて、朝ごはんはパンだけを食べて登校…11時に寝た) ○たくみさんの元気の無い理由から、本問題点をつかみ、本時の課題につなげる。		T1
	けんこうに過ごすためにはどうしたらよいか考えよう			T1
展開 30分	2 健康に過ごすためには、どんなことに気をつけたらよいか話し合い、発表する。	○健康に過ごすための、生活の仕方について考えさせる。 ○発表した意見は、3つに分けて板書する。 <ul style="list-style-type: none"> ・食事について ・運動について ・睡眠について 	生活表	T1 T1 T2(板書)
	3 「健康な生活」には、生活のリズム(規則正しい生活)が必要なことに気付く。	○健康に過ごすには、1日の生活のリズムに合わせて、食事、運動、睡眠を行う必要があることについて知らせる。	生活リズムの図	T2

	<p>4 朝ごはんのアンケートの結果を示し、朝ごはんの大切さについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳のめざましスイッチ。 ・体のめざましスイッチ。 ・おなかのめざましスイッチ。 	<p>○食事、睡眠、運動のなかでも食事、特に朝ごはんをしっかりとることが、一日の生活リズムを整えるために大事であることを知らせる。</p> <p>朝ごはんはパンだけより、おかずの種類が多いほうがよいことを知らせる。</p>	アンケート結果	T 2
	<p>5 アンケート結果から自分の生活についてふりかえる。</p>	<p>○アンケート結果から、自分の生活をふり返させる。</p>	アンケート結果スライド	T2
まとめ 10分	<p>6 今日からの実践に向けて、自分の目標を決めて、学習プリントに記入し発表する。</p>	<p>○生活のリズムを整え、習慣化することが大切であることを助言する。</p>	学習プリント	T 1

6 評価

- ・健康に過ごすために、食事、運動、睡眠をしっかりとることが大切であることを理解し、実践しようとする意欲を持つことができたか。

第4学年 特別活動（学級活動）学習指導案

日 時 令和4年7月4日(月) 5校時
児 童 不動小学校4年1組(児童29名)
指導者 T1 教諭 吉田隆浩
T2 栄養教諭 飛塚美智子

1 題材名 「たべかたピラミッド」【学習指導要領学級活動の内容（2）ーキ】

2 題材設定の理由

(1) 題材について

食の乱れや変容の実態が、新聞や雑誌、テレビなどで様々に取り上げられている。簡単な料理の基礎を知らない人、スナック菓子を食事代わりにする人、サプリメントで栄養を摂取する人、欠食が当たり前の人。このような食生活を送る背景は様々であるが、このような食事の結果として、糖尿病、高血圧、肥満症などの生活習慣病が増加している。そして生活習慣病は大人がかかる病気ではなく、小学生にまで低年齢化が進んでいる。

このような状況の中で、健康的な食生活を送ることができる力を身につけることは、生活習慣病を回避するという点で大変意義がある。

本題材の指導にあたっては、健康的な食生活を送るための食に関する知識の具体的な基礎を学ばせる。10年後の自分の食事を考えたり、自分の食に対する意識を明らかにさせたりする。そして、今のような意識でいる場合の10年後の食事として「大学生の食事」を紹介し、食に対する学習の動機付けを図る。

(2) 児童の実態（アンケート Google Forms にて 29名中 28名回収）

4年生の児童は、食欲旺盛で給食も残さず食べる子が多い。

事前アンケートで苦手な食べ物を調査すると67.9%（19名）があると答えた。最初に盛った給食を残さず食べる、だいたい食べるをあわせると71.4%（20名）であった。苦手な食べ物は、野菜類と魚介類が多い。給食で苦手なものが出たとき92.8%（26名）は、苦手なものも食べようと思って食べている。家では、苦手なものがほとんどでない、まったくでない家庭は、7.1%（2名）である。

10年後の夕食に何を食いたいかとのアンケートの問いに夕食にステーキ、オムライス、カレー、お寿司、ラーメンなどの単品メニューが多く、栄養バランス的に考えても野菜が少ない感じのメニューであった。「ごはん、味噌汁、肉・魚のおかず、野菜のおかず」と回答した児童10名であった。

また、今の生活をしていて将来健康で過ごせるかとの問いには、59.2%（16名）が、ちょっと不安があると答えた。

アンケートから見ても好き嫌いせず食べようという子が多く、努力して食べようとしている。しかし、食べることと健康との関わりについては詳しくは分かっていない。そこで10年後も健康に過ごせるような食の基本「たべかたピラミッド」を学ぶことで、これからの食生活の一助となるようにしたい。

3 目標

- ・自分の食生活に関心をもち、自分自身で健康的な食生活を送ろうとする意欲を持たせる。

4 食育の視点

- ・健康に過ごすことを意識して、いろいろな食べ物を好き嫌いせずに食べようとする。
(心身の健康)

5 指導計画

	学習内容	学習場面
事前調査	アンケート実施 (GoogleForms)	6月28日
本時の活動	学級活動 「たべかたピラミッド」	7月4日学級活動
事後指導	好ききらいチャレンジカード	7月5日から11日の給食時間

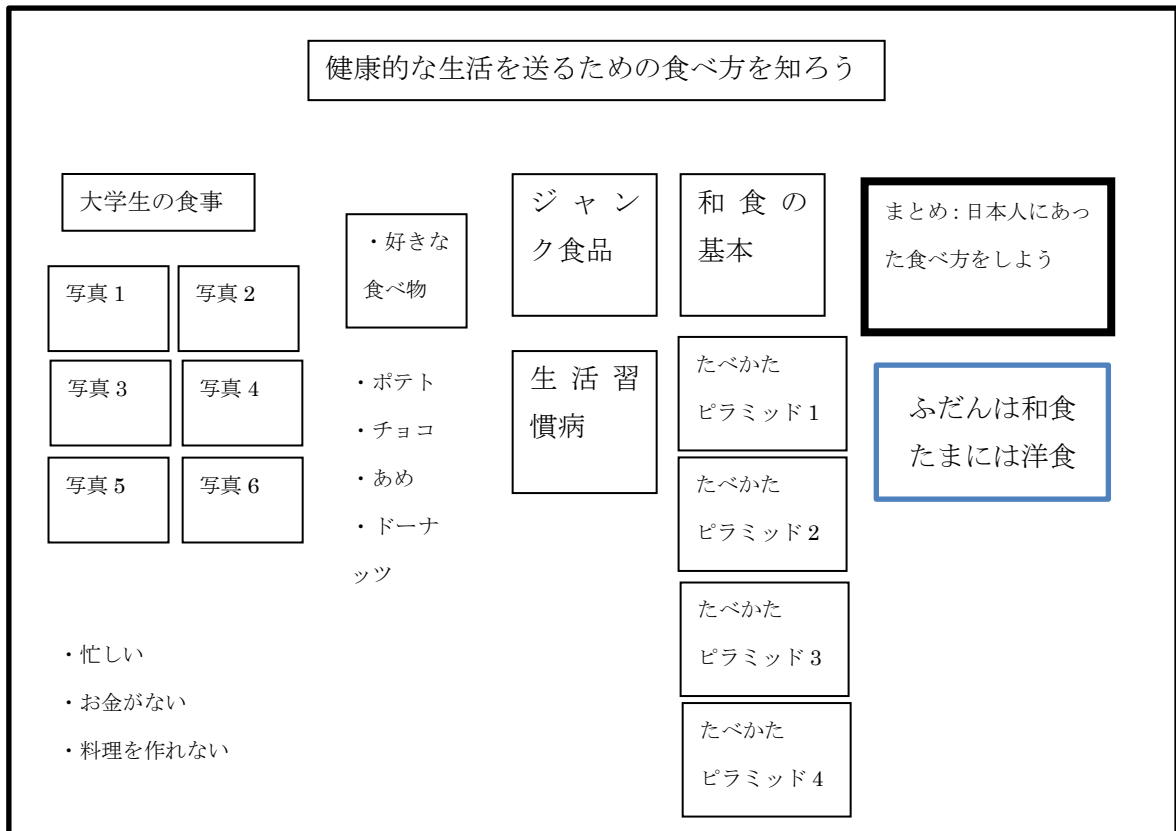
6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	準備物
導入 7分	1 自分たちの食生活を振り返る。	T1 ・アンケート結果から、自分の食事の様子を振りかえさせる。	・アンケート結果スライド ・大学生の食事の写真
	2 大学生の写真を見て考えたことを発表する。	T1 ・体によいと思うか ・食べたいと思うか ・どうしてこのような食事か ○大人になれば自然に健康的な食生活をすごせるようにはならない事を話し、学習の意欲を高める。	
健康的な食生活を送るための食べ方を知ろう			
展開 30分	3 食べ過ぎるといけない食品があることや生活習慣病につながる食事について知る。	T2 ・ジャンク食品や生活習慣病につながる食事を知らせる。 ・食物アレルギーについても知らせる。	・パソコン ・テレビ
	4 和食の良さを知る。	T2 ・和食が、生活習慣病予防にもなることを知らせる。	
30分	5 たべかたピラミッドを知る。	T2 ・たべかたピラミッドを知らせる。	・たべかたピラミッド工作用紙 ・はさみ
	6 たべかたピラミッドを作る。	・たべかたピラミッドを作らせ今後の食べ方の見直しに活用させる。	
終末 8分	7 本時を振り返り、今後の自分の食生活について考える。	T1 ・本時の感想を発表させ、自分のめあてを決定させる。 【評価 (発表)】	・感想カード

6 評価

- ・自分の食生活に関心を持ち、自分自身で健康的な食生活をおくろうとすることが意欲が持てたか。

7 板書計画



8 他教科との関連

- ・保健体育の学習指導要領（2）ウと関連している。

5 学年 特別活動（学級活動）指導案

指導日 令和2年11月19日（木）

指導学級 5 学年 36 名

指導者 栄養教諭 飛塚 美智子（T1）

教諭 多田 滋、高橋悦子（T2）

1. 題材名 「サンタ・マリアⅡ」

2. 題材の目標 人間が生きていくためには、食べ物が大切であることを考える。

3. 題材について 飽食の時代に育つ子どもたちは、生きることに直接つながる食べ物の重要性について考える機会が少なくなっている。
そこで、「コロンブスの航海」をもとに、子どもたちが「サンタマリアⅡ」という架空の船で航海するという仮想体験を通して、食の問題を考えてみたい。
また、普段なにげなく食している、身の周りの食品に注目し、自分自身で食品を選択するという学習活動を通して、生きていくための基本的な力を養うことを主題とする。

4. 本時の展開

	児童の活動	活動のポイント	準備物
導 入	1.コロンブスの航海 コロンブスがサンタマリアで航海するために工夫した食糧や、その問題点を考える	・長い航海の間に必要な食糧をどのような方法で積み込んでいたのかを説明する	・タブレット（iPad） ・テレビ
展	2.出航の準備 サンタマリアⅡに乗って航海するために必要な食品をブレインストーミングする	・ブレインストーミングの進め方、役割、ルールを説明する ・グループに分かれてブレインストーミングを行う	ブレインストーミングに使用する模造紙、マジック
	グループで考えた食品を発表する	・子どもたちが考えた食品をグループごとに発表する	模造紙を貼るためのマグネット等
開	3.サンタマリアⅡ 積み込んだ食品をもとに課題を行なう	・積んでいる食品をもとに課題をだす ・グループで自由に話し合う	課題に使用する模造紙
	課題の結果や工夫したことなどを発表する	・食品の組み合わせや、調理の方法などが重要であることを説明する	
ま と め	4.おわりに コロンブスが持ち帰った食品の価値を考える	・コロンブスが持ち帰った食品について説明する ・生きていくためには、毎日の食べ物が重要であることを説明する	

5. 評価 感想文を書いてもらい、個々の着目した点や感動したこと等を参考にする。

第6学年 特別活動指導案

日 時：令和4年11月14日（月） 6校時

指導学級：男子15名 女子19名

指導者：教諭（T1） 山口 清 元

栄養教諭（T2） 本木 奈保美

1 題材名 「矢巾町産米にぴったりなバランスのよい給食の献立を考えよう」

2 本時の目標

矢巾町産米に合うおかずを考え、班での話し合いをとおしてみんなのために栄養バランスのよい給食の献立を考えることができる。

<食育の視点>

- ・給食は、主食・主菜・副菜がそろっており、栄養のバランスがよいことを理解する。
- ・食品をバランスよく組み合わせて、1食分の食事（給食）を考えることができる。
(食品を選択する能力)

3 事前学習

事前に班ごと（あるいは数人のグループ）で、リクエスト献立を1食分考えておく。

4 本時の指導過程

	学習活動	指導上の支援・留意点	資料	
導 入 2 分	1 2月に、不動小学校6年生が考えた献立を実施することを知らせる。	○ 2月に不動小学校6年生の考えた献立を実施することを伝える。 ○ 本時の学習の流れを示す。		T1
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">給食献立コンテスト ～矢巾町産米にぴったりなバランスのよい給食の献立を考えよう～</p> </div>				
展 開 33 分	2 献立を立てる時のポイントについて知る。 事前に考えた献立が、「五つのポイント」にどれくらい当てはまっているか知る。	○ 献立を考える時に気を付けたい「五つのポイント」について知らせる。 ① <u>だれにつくるか</u> ② <u>料理の組み合わせ</u> ③ <u>旬の食材・町産食材</u> 2月が旬の食材を知らせる。 (<u>ヤーコン</u> 、 <u>長芋</u> 、 <u>しいたけ</u> 、 <u>ねぎ</u> 、 <u>大根</u> 、 <u>玉ねぎ</u> 、 <u>じゃがいも</u> 、 <u>大豆</u> 、 <u>きくらげ</u> 、 <u>ほうれん草</u> 、 <u>白菜</u> 、 <u>さけ</u> 、 <u>さんま</u> 、 <u>ブリ</u> 、 <u>たら</u> 、 <u>サワラ</u>) ※下線は町産食材	黒板：マグネット 児童：ワークシート 食材の絵カード	T2

	<p>・3つの食品群のはたらきや、五大栄養素について振り返る。</p> <p>・主食、主菜、副菜について知る。</p> <p>3 「五つのポイント」について、アンケートに回答し、事前に考えた献立を評価し合う。</p> <p>4 給食献立コンテストの献立を立てる。グループで、一つの献立にまとめる。</p>	<p>④ 栄養バランス</p> <p>○3つの食品群のはたらきと食品について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤の食品 おもに体をつくる（たんぱく質・無機質） ・黄の食品 おもに熱や力のもとになる（炭水化物・脂質） ・緑の食品 体の調子を整える（ビタミン） <p>○3つのグループの食品をとるためには、主食・主菜・副菜・汁物を組み合わせると良いことを示す。</p> <p>⑤ できあがりのいろどり</p> <p>○各班の改善点を確認する。</p> <p>○班で一つの献立にまとめる。 献立表の一口メモで知らせることを伝える。</p>	<p>媒体は家庭科の教科書を引用</p> <p>児童：スプレッドシート →提出</p>	<p>T1</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>5 班で考えた給食のメニューを発表し、意見を交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立の内容 ・工夫した点や献立を考えた理由 	<p>○「五つのポイント」の面から、栄養教諭の講評を聞く。</p> <p>○本時の学習をまとめる。</p> <p>・献立を考える時・食事を食べる時には、「五つのポイント」に気をつけること大切です。</p> <p>※時間内に班の献立がまとまらなかった場合は、担任の先生に提出する (11月16日(水)までに調理場へ)</p>	<p>画面：提出されたスプレッドシート</p>	<p>T1 T2</p>

5 事後評価

各班から提出された献立や、献立のポイントについて、以下の面から栄養教諭・調理員で評価し、2月に提供する献立を決定する。

【評価のポイント】

	A	B	C	D
① 誰につくるか	気を付けたポイントが2つ以上あった。	気を付けたポイントが1つあった。	気を付けたポイントについて記載がなかった。	気を付けたポイントについて記載がなかった。
② 料理の組み合わせ	考えた献立に対し、和・洋・中が適切に選択できた。	考えた献立に、和・洋・中の統一感が見られた。	考えた献立が、和・洋・中のばらばらの組み合わせであった。	考えた献立が、和・洋・中のばらばらの組み合わせであった。
③ 旬の食材	3つ以上取り入れていた。	2つ取り入れていた。	1つ取り入れていた。	取り入れていない。
③ 町産食材	3つ以上取り入れていた。	2つ取り入れていた。	1つ取り入れていた。	取り入れていない。
④ 栄養バランス	・五大栄養素のバランスがよい。 ・牛乳以外に無機質の食材を取り入れている。	・五大栄養素のバランスが良い。	・三色の栄養バランスが整っている。	・栄養バランスが整っていない。
⑤ できあがりのいろどり	緑黄色野菜を3つ以上取り入れていた。	緑黄色野菜を2つ取り入れていた。	緑黄色野菜を1つ取り入れていた。	緑黄色野菜を取り入れていない。
(担任からの評価) ① 「五つのポイント」に気を付けていたか	とても気を付けていた	やや気を付けていた	あまり気を付けていなかった	まったく気を付けていなかった
(栄養教諭からの評価) ① 主食・主菜・副菜・汁物の組み合わせ	主食・主菜・副菜・汁物がそろっている。	主食・主菜・副菜・がそろっている。	主食・主菜がそろっている。	主食がある。
② 野菜の量について	野菜を7種類以上取り入れている。	野菜を4～6種類取り入れている。	野菜を1～3種類取り入れている。	野菜を取り入れていない。
(調理員からの評価) ① 衛生的な調理工程管理	衛生的な調理工程管理ができる。	衛生的な調理工程管理が難しい。	衛生的な調理工程管理が難しい。	衛生的な調理工程管理が難しい。

各学級から選ばれた献立は、おたよりや献立表に記載して、児童生徒に知らせる。

また、選出されなかった献立については、改善点やコメントを栄養教諭が記入し、児童へ返却する。